

あいち農産物生産流通レポート

2022年8月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ ブドウ「グロースクローネ」の無核栽培マニュアルを作成 (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス	
・ かがり弁ギクの鉢花はいかがですか (新城設楽農林水産事務所)	2
・ 「愛知県ぶどう現地研究会」が豊橋市で開催されました (東三河農林水産事務所)	3
◎ 東日本情報	
・ 農水省から発信！ 有機農産物を取り入れた「あふ食堂」の取組 (東京事務所)	4
◎ 西日本情報	
・ いいともあいち体感フェアを実施しました (食育消費流通課)	6
◎ フラワーページ	
・ 花の王国あいち県民運動実行委員会の取組について (園芸農産課)	7
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	22

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

ブドウ「グロースクローネ」の無核栽培マニュアルを作成

農業総合試験場

ブドウ「グロースクローネ」は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門が育成し、2020年に種苗法に基づき登録された品種です。この品種は極大粒で着色良好なため、「巨峰」や「ピオーネ」が高温により着色不良となる地域での普及が期待されています。しかし、蕾や肥大前の果実が落下する「花振るい」の発生が多く、収穫適期を過ぎると果粒が軟化しやすいなど、高品質な果実を生産する上での課題がありました。



そこで、本県における「グロースクローネ」の高品質果実生産を図るため、2010年から2020年に当場で行った試験結果をもとに、栽培マニュアル（図1）を作成しました。

グロースクローネの果房

1 栽培マニュアルの主な内容

「グロースクローネ」は花振るいの発生が多いことから、その抑制効果もある植物成長調整剤を利用する無核栽培に限定した内容としました。果実の生産目標（表1）を定め、それを達成するための基本的な栽培技術をまとめました。

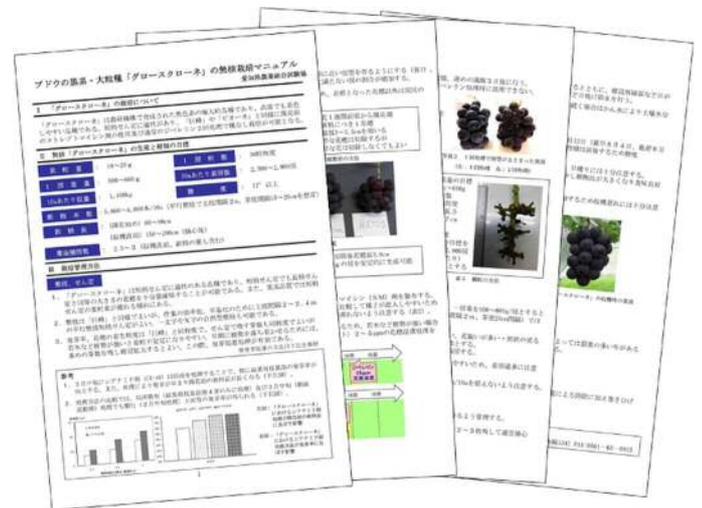


図1 作成した栽培マニュアル

(1) 無核化处理

慣行のジベレリン2回処理を基本としますが、若木や多施肥など樹勢が強い場合には、着粒安定のため開花始期にホルクロルフェニユロン（フルメット）処理も行います。

(2) 花穂整形長

500~600gの円筒形に近い果房を生産するため、開花始期に花穂下部3.0~3.5cmを使用します。花穂先端を切り詰めると房型が劣るため、奇形花穂以外は切り詰めないようにします。

(3) 収穫適期

収穫遅れによる果粒の軟化を回避するため、糖度17~18°を目安として、食味を確認して収穫します。

表1 果実生産目標

グロースクローネの果実生産目標

1	果粒重	: 18~20g
1	房粒数	: 30粒程度
1	房重量	: 500~600g
10a	当たり着房数	: 2,300~2,800房
10a	当たり収量	: 1,400kg
	糖度	: 17°以上

2 栽培マニュアルの活用

今後、地球温暖化の進行に伴い果実の成熟時期が高温となり、「巨峰」や「ピオーネ」の着色不良果実の発生が増加することが予想されます。そのため、「グロースクローネ」のような着色良好な品種は、栽培面積が拡大すると見込まれます。本栽培マニュアルの活用により、「グロースクローネ」の高品質な果実が安定的に生産されることが期待されます。

かがり弁ギクの鉢花はいかがですか

新城設楽農林水産事務所

「かがり弁ギク」は愛知県と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構が共同開発した品種で、2017年に品種登録されました。花卉の先端に複数の突起がある「かがり弁」と呼ばれる珍しい花形は、これまでのキクにはない華やかな美しさがあり、愛知県では主に切花として生産されています。

新城設楽地域では、2019年から「かがり弁ギク」を鉢花として生産・出荷する取組がなされており、2022年は新城市作手地区の4戸、設楽町東納庫地区の1戸で生産が行われています。

1 産地の概要

新城作手地区は標高500m、設楽町東納庫地区は標高700mと高冷地であり、夏冷涼な気候です。このため、10月でも鉢花の発色が良く、色鮮やかな仕上がりとなります。

「かがり弁ギク」は6月に定植が行われ、新城市作手地区では9月下旬から、設楽町東納庫地区では10月上旬から出荷が始まり、11月頃まで続きます。出荷先は、愛知県内、関東方面の市場です。新城市、設楽町内の直売所等でも少量ですが、販売されています。



かがり弁ギク白

2 かがり弁ギクの鉢花

「かがり弁ギク」の鉢花は、切花と比較して日持ちが良いのが特徴です。ポットマムとしては背が高くなる傾向が強いため、寄せ植え・ガーデニングなどでは活用の幅を広げることができます。

一方で、かがり弁ギクの鉢花は流通量が少なく、知名度もまだ低い状況です。また、かがり弁ギクの苗は自家増殖しているため、育苗の手間などの面から増産が難しいという課題もあります。



ほ場の様子

3 新城設楽農林水産事務所の活動

新城設楽農林水産事務所では、毎年管内の農産物等を管内の県職員向けに斡旋販売を行いPRしており、今年度は、かがり弁ギクの鉢花も販売予定です。今後もかがり弁ギクの鉢花のすばらしさをより多くの方に知ってもらえるようPR活動に積極的に取り組んでいきます。

「愛知県ぶどう現地研究会」が豊橋市で開催されました

東三河農林水産事務所

2022年7月14日（木）に豊橋市で、ぶどう生産者の栽培技術及び農業所得の向上を目的として、愛知県果樹振興会主催の「愛知県ぶどう現地研究会」が開催されました。JA豊橋ぶどう部会の生産者園地の視察が行われたほか、豊橋市公会堂で豊橋市のぶどう産地紹介とぶどうの栽培技術等に関する講演が行われ、県内ぶどう生産関係者120名が参加しました。一昨年と昨年は新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み中止されたため、3年ぶりの開催となりました。

1 園地視察

はじめに、豊橋市内の2か所の園地の視察が行われました。概要は以下のとおりです。

- ・1か所目 品種：「シャインマスカット（露地）」 面積：8a（石巻小野田町）
- ・2か所目 品種：「巨峰（露地）」 面積：16a（石巻平野町）

視察園の経営及び栽培概要について、東三河農林水産事務所農業改良普及課から説明があり、その後、生産者間の意見交換が行われました。各産地の参加者から、収穫時期に関することや、雇用労力の確保などについて数多くの質問があり、活発な交流が行われました。

2 研究会

（1）産地概要

豊橋市のぶどう生産状況について、農業改良普及課から以下のとおり概要説明がありました。

- ・豊橋市では1945年以前からぶどう生産が行われており、1977年には豊橋市の生産者が全国に先駆けてジベレリン処理による無核「巨峰」の生産に成功し、「種なし巨峰」栽培が急速に広がった。
- ・現在の生産者数は51名、栽培面積は16.9haで、「巨峰」を中心として「シャインマスカット」、「デラウェア」、「クイーンニーナ」等が栽培されている。



研究会の様子（豊橋市公会堂）

（2）講演

はじめに、愛知県農業総合試験場園芸研究部落葉果樹研究室の東技師から、『ブドウ「グロースクロネ」の高品質安定生産技術』について講演がありました。

次に、愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室の関間専門員から、『ブドウ晩腐病に関するアンケートの解析結果』について講演がありました。

最後に、住友化学株式会社の村上氏から、今後流通する予定のぶどうの植物成長調整剤に関する情報提供がありました。

参加者からは、「視察では自分の栽培と比較できて、大変参考になった。」「適期作業の重要性が改めて理解できた。」といった感想が聞かれ、有意義な研究会となりました。

農水省から発信！有機農産物を取り入れた「あふ食堂」の取組

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

農林水産省本省庁舎内の食堂が、2022年6月に有機農産物を取り入れたメニューを提供する「あふ食堂」としてリニューアルオープンしました。当食堂の運営を受託する(株)SANKO MARKETING FOODS（以下、SANKOと言う）と農林水産省を取材しましたので、その内容を紹介します。

1 「あふ食堂」とは

「あふ」は、Agriculture, Forestry, Fisheries and Foodの頭文字をとり、古語では会う（出会う）、和ふ（混ぜ合わせる）、餐ふ（食事のもてなしをする）の意味を持ちます。有機農産物や沼津直送の鮮魚など、日本の美味しい食材に出会い、それを混ぜ合わせ、「食事でもてなしをする食堂」です。



店内の様子

2 「あふ食堂」オープンの経緯

農林水産省では、2021年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに農林水産業のCO₂ゼロエミッション化や、有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大することを目標としています。このような中、食堂運営事業者の公募を、有機農産物の積極的な使用を含め食の責任官庁に相応しい食堂とすることをコンセプトとして実施し、SANKOとの契約に至りました。

SANKOは、金の蔵などを展開している総合居酒屋の業態を得意とする会社であり、46年の実績を持ちます。コロナ禍で居酒屋経営を模索する中、2020年に沼津我入道漁業協同組合員となり、2021年には漁船を継承取得し、漁業への取り組みを始めました。

一次産業に取り組む中で、生産者の大変さを実感し、「生産者が苦しんでいては食文化を守れない」ことを学び、「生産者が苦勞して作った農産物に付加価値を付けたい」との思いから有機農産物を取り入れた「あふ食堂」の受託運営に至りました。

3 有機農産物の仕入れ先の拡大へ「愛知の生産者ともご縁があれば」

SANKOは、農産物の消費先として50店舗以上を持つ強みを生かし、様々な有機農産物を取扱う卸業者と契約することで、不安定になりやすい有機農産物の価格の安定を目指しています。

「あふ食堂」の受託運営をきっかけに有機農産物の扱いに力を入れるようになり、生産者と直接会うなどし、契約量を増やしている最中です。そのため、「愛知の生産者との付き合いはまだ無いけれども、ご縁があれば取り扱いたい」と、強い意気込みを感じました。

4 有機農産物を取り入れたメニュー

ランチでは常時7種類のメニューを出しており、価格は700～1,200円になります。漁協組合員ならではの鮮魚と、有機農産物を組み合わせたメニューは「あふ食堂」の大きな特徴になります。



入口のメニュー展示

有機農産物を取り入れているため、福利厚生施設としては若干高い価格設定となっておりますが、調理方法を工夫するなど細かにコストを削減しつつ、価格に見合ったボリューム感のあるメニュー作りに取り組んでいます。

5 食堂のレイアウト

食堂の入口には、メニュー展示だけでなく、有機農産物の産地名を記載した看板を置いています。また、有機農産物の展示も行っており、有機農産物をPRする一助となっていました。

店内は、利用者が安らげる空間を目指し、国産の杉や檜の利用や、天井を高くするなどの工夫がなされています。食事以外の利用も想定した設備が整っており、1人から多人数まで利用できるオープンエリア、大型デジタルサイネージのあるモニターエリア、少人数での打合せができるボックスエリア、要人会食など特別な利用にも対応できる個室エリアがあります。



産地標記の看板



有機農産物の展示



モニターエリア



ボックスエリア



個室エリア

6 企画用のキッチンも完備

「ここで愛知の特産品をPRしては？」

店内には、通常のキッチンとは分離された別のキッチンが用意されており、施策広報につながる特色のあるメニューを提供することができます。

農水省の担当者からは、「郷土料理を作り、食文化を発信する場として「あふ食堂」を活用することもできますので、愛知も活用を検討してはいかがでしょうか。」と提案がありました。



企画用キッチン

7 「あふ食堂」に対する思いと課題

取材を通して「生産者、産地の活性化に向けて一緒に取り組んでいきたい。農産物を受け消費者に届けるという機能を持つ店舗の役割を拡充していきたい」という思いが伝わってきました。また「この食堂が食育のきっかけとなってほしい」という大きな思いがあることも知りました。

しかし、食材として有機農産物を使うだけではなかなか思いが伝わらない現状があり、どのように伝えるかが課題となっています。今後は、農水省と協力しながら、食堂を活用して有機農産物の発信を進めていきたいと語っていました。

いいともあいち体感フェアを実施しました

食育消費流通課

あいちの農林水産フェア実行委員会（構成：愛知県、JA 愛知中央会、JA あいち経済連）は、2022年6月18日（土）、19日（日）の2日間、愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）で開催された「第17回食育推進全国大会 in あいち」の会場内で「いいともあいち体感フェア」を実施しました。

1 食育推進全国大会の概要

食育推進全国大会は、食育推進運動を重点的かつ効果的に実施する6月の「食育月間」における中核的な全国規模の行事で、イベントや展示を通して食育の実践を働きかけており、2006年の第1回大会（大阪府）以降、毎年、全国各地で持ち回り開催されています。

2 いいともあいち体感フェアの実施内容

第17回食育推進全国大会 in あいちのコンセプトである「あいちの『食』の魅力を感じ取る場」と連動し、「見る」「食べる」「体感する」を軸とした企画を通じて、来場者の方々に県産農林水産物をPRしました。

(1) あいちの茶PRコーナー

県産のせん茶、深蒸し茶及びかぶせ茶の試飲ブースを設置

(2) フラワーアレンジメント教室

県産の花きを使用したアレンジメントとAR体験コーナーを設置

(3) わくわく！スマート農業体験

アシストスーツを試着し農作業の疑似体験、畑をイメージしたコースでトイドローンの操作体験を実施

(4) 地産地消弁当の販売

本イベントの目玉企画。県産農林水産物を主たる食材とし、名古屋の老舗仕出し料理店「八百彦本店」が作成した地産地消弁当を販売

(5) 食農クイズコーナー

パソコンから出題されるクイズに答え、県産農林水産物の知識や食と農の大切さを学ぶクイズ企画を実施。全問正解者には、県産花きのミニブーケをプレゼント。

(6) とうもろこしのもぎ採り体験

朝、茎ごと刈って来たとうもろこしの収穫体験を実施



ブースの様子
(フラワーアレンジメント教室)



地産地消弁当

食育推進全国大会には、2日間で23,515人の来場があり、幅広い世代の方々に県産農林水産物の魅力を実感していただきました。

花の王国あいち県民運動実行委員会の取組について

園芸農産課

花の産出額が59年間日本一の愛知県では、花きの生産、流通、小売及び消費に係る団体とともに、「花の王国あいち県民運動実行委員会」を組織し、県民の暮らしに花を取り入れていただく「花いっぱい県民運動」を展開しています。

今年度は、運動開始から10年目という節目の年ですので、改めて取組について紹介します。

1 花の王国あいちPR促進運動

(1) 今月のあいちの花

月ごとに「今月のあいちの花」を設定し、マスコミ等へのPR活動や、県内主要施設（県庁本庁舎、豊橋駅等）での装飾展示をしています。



県庁本庁舎



豊橋駅コンコース



NHKウィークエンド中部

(2) 花の王国あいちシンボルマーク

愛知県が日本一の花の産地であることを広く周知し、県産花きの利用拡大を促すために、「花の王国あいちシンボルマーク」を活用したPRに取り組んでいます。

あいちの花を展示しているところでは、是非このマークを探してみてください。

○シンボルマークのコンセプト

王冠は花を横から見た形をイメージし、葉をヒゲに見立て、花の王国あいちの象徴となる王様の顔をデザインしてあります。

カラーは、植物のグリーン、花と愛のピンク、それらを育む土のブラウンとしています。



登録商標第5815223号

花の王国あいちシンボルマーク

(3) 花の王国あいちサポート企業

花いっぱい県民運動の趣旨に賛同し、愛知県産の花を用いた活動を実践していただける県内企業等を募集・認定しています(2013年度から累計41企業認定)。

現在、2022年度認定企業を募集しています(2022年9月16日(金)まで)。



2021年度認定証贈呈式

(4) 情報発信

ホームページや Instagram を活用し積極的に「花の王国あいち」をPRしています。



花の王国あいちホームページ



花の王国あいち Instagram

2 あいちの人と花結び事業

(1) 花育ティーチャーの登録・派遣

花や緑に関する専門的な知識や経験を有し、県内の花育活動に際し、指導・支援を行うことができる個人または団体を募集、登録しています。

登録された花育ティーチャーを、小学校等での花育活動の指導・支援を希望する機関の要請に応じ、紹介しています。寄せ植えやフラワーアレンジメントなどの花育教室の開催を検討されている方は是非ご活用ください。

(2) 高齢者福祉施設等でのフラワーアレンジメント教室

今年度の新たな取組として、施設におけるレクリエーション活動として、高齢者福祉施設等でのフラワーアレンジメント教室を開催しています。

3 花の王国あいちパートナーシップ事業

県内の注目の集まるイベントにおいて、「あいちの花」をふんだんに使った装飾展示などにより、「花の王国」を幅広い県民にPRしています。今年度はジブリパーク開園時に開催されるあいち市町村フェアにおいて、装飾ブースを設置するなど、「あいちの花」を広くPRしていく予定です。



東京オリンピック聖火リレー出発式での
装飾展示 (2021年)



大相撲名古屋場所優勝力士への
花束贈呈 (2022年)

4 花のまちづくり推進事業

商店街、企業等における「あいちの花」を活用した花のまちづくりを進める取組です。申請のあった団体へ専門家を派遣し、花壇づくり等の技術指導を実施しています。



住宅街での花壇づくり



介護施設での花壇づくり

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：巨峰）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	5 6 7	7 0 (1 2 %)	1, 3 3 1	1, 3 5 0	長野 (5 4 %) 山梨 (3 4 %) 愛知 (1 2 %)
2022年見通し	5 0 0	—	1, 3 7 0	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年から引き続き、シャインマスカットの作付けが増加しており、巨峰は減少傾向にある。梅雨明け後の高温で、夜温も高くなっているため、着色不良が懸念される。果粒の大きさは、干ばつの影響で小さかった昨年ほどではないが、やや小さめ。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>			<p>シャインマスカットの割合が年々高くなる中、バラエティ豊かな品種構成となるよう様々な品種の栽培をお願いしたい。 長年の栽培技術をもって品質のよい巨峰づくりをお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	8 4 6	3 5 6 (4 2 %)	1, 0 3 0	1, 1 7 5	愛 知 (4 2 %) 和歌山 (2 4 %) 静 岡 (9 %)
2022年見通し	8 4 5	—	1, 0 3 0	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知を中心に和歌山、静岡、福岡などからの入荷となる。前年は暖かく推移し、安定した入荷量の年であった。 今年、平年より早い梅雨明けではあったが、前年より生育が遅く、ハウスの出荷ピークは遅れている。また、天候が安定せず、6、7月は不安定な入荷量となったが価格への影響は少なく保合で推移した。 8月上旬から露地の入荷が始まり盆明けにピークとなる見込み。天候次第ではあるが、入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p>			<p>愛知県産は入荷量が多く品質も良いため、量販店からも支持されている。商品特性として過熟や裂果といった傷みがやすく、品質管理が特に重要であるため、検品をしっかり行い品質の維持を図るとともに、等階級別選果の徹底に努めてほしい。 いちじくは京浜地区でも夏から秋の果物として定着してきている。生産者の高齢化等により生産規模が縮小傾向であるが、産地の維持・拡大をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	31,057	229	213	231	243	北海道 34%
	2018年	30,738	265	264	271	265	長野 26%
	2019年	33,761	221	218	232	217	群馬 9%
	2020年	33,430	274	306	277	245	兵庫 5%
	2021年	34,512	215	196	202	241	岐阜 5%
	5ヵ年平均	32,700	241	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	32,400	228	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野を中心に入荷する。本年は6月下旬の高温により、生育不良となった品目も多くあった。ほとんどの品目で前年より入荷量が減り、価格が上がる予想。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
だいこん	2017年	1,459	87	92	95	87	青森 44%
	2018年	1,634	113	131	122	105	北海道 43%
	2019年	1,538	97	85	125	99	岐阜 11%
	2020年	1,474	116	110	118	123	長野 2%
	2021年	1,674	92	83	102	98	
	5ヵ年平均	1,556	101	100	112	102	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,400	115	120	115	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。各産地、経費の高騰や高齢化により計画的に作付面積を減らしている。かつ、6月の天候不良により入荷量は減少する見込みだが、暑さで消費は鈍いと思われる。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
にんじん	2017年	1,749	154	178	115	163	北海道 97%
	2018年	2,198	71	58	69	86	中国 2%
	2019年	1,967	139	129	132	149	長崎 1%
	2020年	2,369	154	195	139	126	
	2021年	2,114	133	123	133	142	
	5ヵ年平均	2,079	129	136	118	131	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,000	135	135	135	135	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に入荷する。北海道は生育良好で順調な入荷を見込む。盆前は肥大不足の傾向。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	1 2 5, 3 0 0	2 4 8	229	254	261	北海道 26%
	2018年	1 1 8, 6 9 3	2 9 0	290	295	287	群馬 16%
	2019年	1 2 6, 3 3 0	2 4 0	230	246	245	長野 16%
	2020年	1 1 8, 7 1 4	3 0 8	343	318	276	岩手 6%
	2021年	1 1 7, 9 3 2	2 4 2	215	233	271	茨城 6%
	5ヵ年平均	1 2 1, 3 9 4	2 6 5	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1 2 2, 0 0 0	2 4 5	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北、高冷産地からの入荷が中心となる。異例の早さでの梅雨明けも7月中旬から梅雨のような天候が続き、品目により品薄となった。8月は天候の回復により多品目で順調な入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
だいこん	2017年	9, 4 1 4	8 4	84	88	82	北海道 60%
	2018年	8, 0 1 7	1 1 6	125	122	104	青森 34%
	2019年	8, 2 3 6	9 5	79	114	95	岩手 3%
	2020年	7, 6 7 5	1 1 5	107	115	121	群馬 2%
	2021年	7, 3 3 0	9 3	83	102	94	
	5ヵ年平均	8, 1 3 4	1 0 0	95	108	98	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7, 2 0 0	1 2 0	130	130	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森からの入荷がほとんどを占める。主力北海道では高温による品質低下や曇天による生育遅れは解消すると見込まれるも、入荷量は少なめか。青森は地域により生育遅れ等で量を減らす見込み。入荷量は少なかった前年並で、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
にんじん	2017年	7, 6 0 7	7 1	64	70	78	北海道 93%
	2018年	6, 4 7 8	1 3 7	129	139	142	青森 5%
	2019年	7, 2 1 5	8 9	84	82	97	中国 1%
	2020年	6, 9 8 3	1 5 6	213	146	122	
	2021年	6, 3 3 0	1 3 2	122	127	139	
	5ヵ年平均	6, 9 2 3	1 1 5	121	111	114	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	6, 8 0 0	1 2 5	170	105	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占め、他は青森などから入荷する。曇天や降雨が多く、生育のばらつきや肥大不足が見られる地域がある。全体としては生育順調で肥大が進み、入荷量に不足はない見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
はんぱい	2017年	1,690	56	61	62	58	長野 99%	
	2018年	1,636	86	56	82	115	兵庫 1%	
	2019年	1,524	122	158	105	107		
	2020年	1,519	154	158	169	139		
	2021年	2,049	84	68	75	104		
	5ヵ年平均	1,684	98	97	96	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	1,600	90	80	90	100		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。長野は6月下旬の高温、干ばつの影響により盆以降入荷量が減る見込み。業務用、漬物用、量販用について夏場の需要は落ち込む。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
	キヤベツ	2017年	4,438	77	78	81	79	群馬 62%
2018年		4,289	89	71	97	100	長野 31%	
2019年		4,322	100	114	108	91	北海道 5%	
2020年		3,535	151	146	154	157	石川 1%	
2021年		4,809	79	78	81	81		
5ヵ年平均		4,278	97	95	102	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し		4,400	80	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>群馬を中心に長野、北海道などから入荷する。群馬と長野は生育良好で、順調な入荷を見込む。北海道は作付面積が増加している。業務の動きがよくなれば、価格の低迷はない予想。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年並の見込み。</p>								
ほうれんそう		2017年	178	682	624	690	795	岐阜 90%
	2018年	137	806	778	869	809	長野 3%	
	2019年	137	853	848	846	886	茨城 2%	
	2020年	179	799	842	779	810	静岡 2%	
	2021年	187	771	677	747	958	愛知 2%	
	5ヵ年平均	164	777	747	779	853	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	135	800	800	800	800		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>岐阜を中心に、一部長野や茨城などから入荷する。高温の影響により、品質低下が懸念される。作付面積は前年の95%に減少している。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

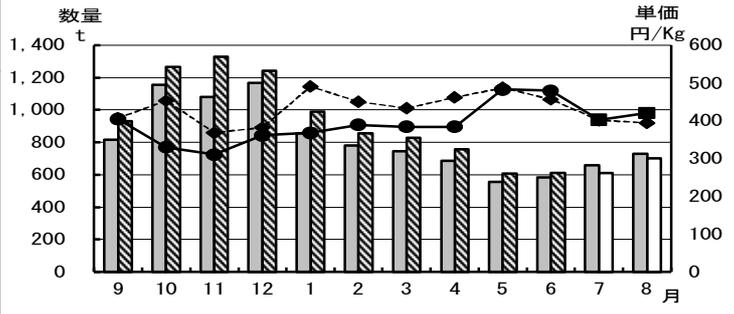
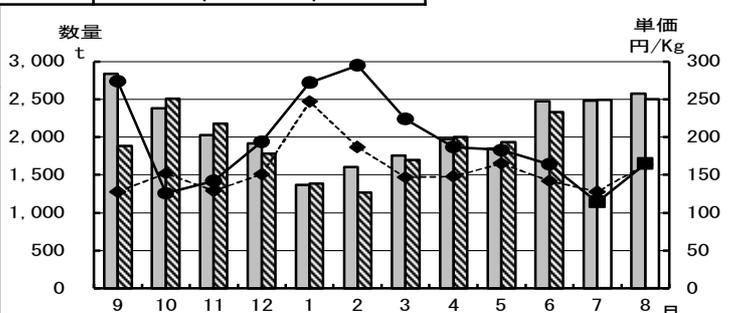
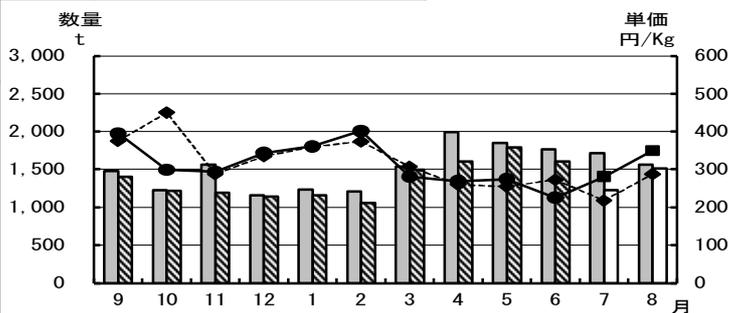
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2017年	6,926	87	58	83	114	長野 96%
	2018年	7,209	126	164	111	106	群馬 3%
	2019年	7,263	86	74	74	105	茨城 1%
	2020年	5,555	171	164	205	142	
	2021年	7,258	82	63	69	103	
	5ヵ年平均	6,842	108	102	104	113	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	6,900	80	70	80	90	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からの入荷がほとんどを占め、他は群馬などから入荷する。主力の長野は、高温や干ばつで遅れていた生育は、適度な降雨により回復。徐々に入荷量を増やし、価格展開は厳しいか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
キヤベツ	2017年	16,393	82	60	90	96	群馬 77%
	2018年	17,527	100	117	103	83	岩手 14%
	2019年	16,671	100	86	113	104	長野 7%
	2020年	15,510	166	152	176	168	北海道 1%
	2021年	16,714	74	73	77	74	千葉 1%
	5ヵ年平均	16,563	104	97	111	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	16,500	75	70	80	75	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、岩手からの入荷がほとんどを占め、他は長野などから入荷する。群馬は生育順調で潤沢な入荷が続く見込み。岩手も順調な入荷が見込まれ、相場展開は厳しいと予想される。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>						
ほうれんそう	2017年	695	823	834	881	772	栃木 36%
	2018年	662	826	799	835	843	群馬 31%
	2019年	576	903	735	1,011	1,011	茨城 15%
	2020年	678	828	830	816	838	岐阜 8%
	2021年	704	782	621	764	955	岩手 5%
	5ヵ年平均	663	830	764	856	880	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	680	800	710	830	860	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>栃木、群馬など関東高冷地を中心に、岐阜、岩手などからの入荷となる。群馬は高温のため生育はやや前進傾向。その他の各産地の生育はおおむね順調。出回り量は十分な見込みも、高温が続くと減らすか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年をわずかに上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	732	389	386	401	404	北海道 46%
	2018年	697	445	401	488	461	長野 18%
	2019年	608	526	509	550	530	茨城 6%
	2020年	726	511	605	544	424	富山 5%
	2021年	729	394	355	397	428	愛知 4%
	5ヵ年平均	698	450	449	473	446	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	700	420	420	420	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野、茨城などから入荷する。北海道、長野は生育良好で、順調な入荷予想。愛知の夏ねぎは出荷終盤で入荷量減少の見込み。富山は前年並の入荷。入荷量や前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
し	2017年	2,429	154	137	160	181	長野 99%
	2018年	2,686	166	139	151	200	愛知 1%
	2019年	2,762	161	170	143	168	
	2020年	2,330	244	327	258	184	
	2021年	2,579	164	129	137	226	
	5ヵ年平均	2,557	176	178	168	192	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,500	165	130	140	190	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野からほぼ全量を入荷する。8月上旬は順調な入荷で、お盆明けから減少の見込み。但し今後の天候次第では大きく変更する。L玉中心での入荷予想。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>							
きゅうり	2017年	1,643	239	214	208	300	長野 56%
	2018年	1,479	313	253	305	370	北海道 26%
	2019年	1,438	403	337	423	449	山形 6%
	2020年	1,742	401	405	393	405	岩手 4%
	2021年	1,560	288	169	268	474	山梨 4%
	5ヵ年平均	1,572	329	277	318	398	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,510	350	300	350	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野を中心に北海道などから入荷する。生育は順調で、お盆前までは安定した入荷を見込む。お盆明けは、夏秋の減少から単価高になる見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	4,320	413	368	510	404	茨城 22%
	2018年	4,241	466	441	547	439	秋田 19%
	2019年	4,612	358	323	430	346	青森 16%
	2020年	4,393	442	522	505	343	北海道 15%
2021年	3,852	368	315	438	361	山形 4%	
ねぎ	5カ年平均	4,284	409	395	486	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ねぎ	2022年見通し	4,000	410	400	470	360	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
ねぎ	<p>茨城のほか、秋田、青森などの東北産地、北海道からの入荷が中心となる。各産地とも生育順調。茨城が多いのは上旬まで、代わって東北以北産地がピークに入っていく、潤沢な入荷が続く見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						
しめじ	2017年	10,160	168	130	151	219	長野 89%
	2018年	9,764	153	157	134	164	群馬 8%
	2019年	9,759	176	157	214	164	茨城 1%
	2020年	7,247	274	422	298	172	岩手 1%
2021年	9,248	173	128	128	261	千葉 1%	
しめじ	5カ年平均	9,236	184	187	179	197	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
しめじ	2022年見通し	9,300	160	120	160	200	
しめじ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
しめじ	<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。主力の長野は、一時期の高温、干ばつによる生育遅れから回復し、順調な生育。群馬も生育順調。高温による品質低下や病害発生の懸念あるも入荷は順調とみる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
きゅうり	2017年	7,691	306	242	310	362	福島 43%
	2018年	7,605	374	303	400	413	岩手 23%
	2019年	8,375	277	209	267	362	秋田 11%
	2020年	8,660	371	377	369	369	山形 5%
2021年	7,943	305	160	310	457	青森 4%	
きゅうり	5カ年平均	8,055	327	260	331	392	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
きゅうり	2022年見通し	8,000	310	250	310	370	
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
きゅうり	<p>福島、岩手など東北産地からの入荷が中心となる。6月上旬までの低温による生育遅れは気温上昇で解消。高温による草勢低下が見られる産地がある。安定した入荷を見込むが中旬以降はなり疲れで減らすか。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	1,110	216	255	188	203	愛知 31%
	2018年	955	285	287	276	292	山梨 28%
	2019年	964	306	350	277	296	徳島 17%
	2020年	897	399	477	418	327	茨城 7%
	2021年	752	339	297	324	393	長野 5%
	5ヵ年平均	936	303	330	290	295	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	870	315	320	300	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知、山梨、徳島などから入荷する。現状は順調な生育であるが、天候次第で大きく変わる。8月下旬は成り疲れて数量が減る見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ト マ ト	2017年	1,949	275	301	248	278	岐阜 67%
	2018年	1,580	351	295	318	433	北海道 15%
	2019年	1,501	437	378	422	512	愛知 10%
	2020年	1,673	373	363	366	391	大分 3%
	2021年	1,755	327	268	281	428	長野 3%
	5ヵ年平均	1,692	348	319	322	402	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,650	330	280	300	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。6月後半の高温から花落ちが発生しお盆前に入荷量に影響が出る見込み。例年どおり大玉傾向の入荷予想。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	2017年	500	607	694	587	541	北海道 74%
	2018年	576	653	556	608	767	長野 13%
	2019年	498	902	823	851	1,009	愛知 4%
	2020年	668	690	783	717	606	青森 2%
	2021年	638	579	493	488	740	岐阜 2%
	5ヵ年平均	576	680	665	645	726	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	575	650	600	650	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に長野、愛知などから入荷する。天候にもよるが概ね順調な入荷を見込む。北海道は前進出荷のため、盆前後から数量が減少する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	4,794	298	297	288	307	群馬 33%
	2018年	5,024	308	326	273	320	栃木 27%
	2019年	4,964	300	326	275	298	茨城 24%
	2020年	4,613	380	502	424	285	埼玉 4%
	2021年	4,414	309	277	308	334	岩手 3%
	5ヵ年平均 2022年見通し	4,762 4,700	318 315	345 325	312 320	309 300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、栃木、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。ひょう害のあった群馬は生育回復し、栃木等での低温による生育遅れも気温上昇で解消。各産地とも生育に問題なく、安定した入荷が続く見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ト マ ト	2017年	8,286	332	228	304	400	北海道 23%
	2018年	7,464	440	363	445	508	福島 18%
	2019年	9,433	245	233	221	285	青森 14%
	2020年	8,654	348	348	325	372	群馬 11%
	2021年	8,199	314	252	276	407	岩手 9%
	5ヵ年平均 2022年見通し	8,407 8,400	331 340	282 340	309 350	389 330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道のほか、福島、青森など東北産地や群馬からの入荷が中心となる。一部産地の低温による生育遅れは解消。高温による着果不良がみられ、出方が不安定になる懸念があるも、出回りに不足はない見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	2017年	1,875	682	592	644	793	北海道 36%
	2018年	1,633	892	769	854	1,020	青森 21%
	2019年	2,503	464	526	414	451	岩手 11%
	2020年	2,282	663	716	702	595	千葉 8%
	2021年	2,211	579	484	515	735	福島 8%
	5ヵ年平均 2022年見通し	2,101 2,100	637 670	608 660	607 680	692 670	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道や、青森などの東北産地からの入荷が中心となる。各産地とも草勢に大きな問題はないものの、高温の影響で着果不良があり、一時期入荷量を減らすか。今後も高温が続くと着花不良が心配される。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	2017年	442	279	347	306	297	北海道 39%	
	2018年	392	403	387	427	461	岩手 21%	
	2019年	380	596	564	580	606	青森 15%	
	2020年	531	513	619	489	454	宮崎 14%	
	2021年	547	322	306	273	427	長野 5%	
	5ヵ年平均	458	417	443	407	444	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	500	400	400	400	400		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>北海道、岩手を中心に青森などからも入荷する。北海道、岩手で、天候不順から7月下旬まで数量が少なかったが、8月上旬にかけて増加する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>
	ばれいしょ	2017年	2,480	147	164	153	143	北海道 89%
2018年		2,167	117	114	114	123	静岡 6%	
2019年		2,080	115	103	119	131	青森 4%	
2020年		2,713	168	247	155	119		
2021年		2,240	157	136	148	175		
5ヵ年平均		2,336	143	158	139	138	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し		2,400	125	130	125	120		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>北海道を中心に静岡、青森などから入荷する。北海道は盆明けから数量が増え、順調な入荷となる見込み。また、定植時の干ばつ、6月下旬からの降雨により、収穫してみないと品質がわからない状況。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>	
たまねぎ		2017年	3,439	176	211	189	155	北海道 60%
	2018年	4,084	84	90	87	81	兵庫 31%	
	2019年	4,651	107	108	111	106	富山 2%	
	2020年	6,168	103	132	104	82	中国 2%	
	2021年	5,780	98	104	95	96	滋賀 2%	
	5ヵ年平均	4,824	110	125	112	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	5,500	110	130	110	90		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>北海道、兵庫を中心に入荷する。北海道は生育順調で8/8以降順調な入荷を見込む。兵庫はL中心で、お盆まで安定した入荷をし、お盆以降は減少する見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	1,949	373	335	386	399	岩手 54%
	2018年	1,947	545	561	573	517	茨城 19%
	2019年	2,180	376	374	347	399	福島 15%
	2020年	2,543	468	667	422	392	青森 9%
	2021年	2,419	304	261	243	411	宮崎 1%
	5ヵ年平均	2,208	411	443	388	421	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,400	400	450	380	370	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岩手、福島などの東北産地や茨城からの入荷が中心となる。東北産地では低温等の影響による生育遅れが回復に向かうも解消には至らないか。東北産地のピーク時期で、出回り量は十分と見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
<p>岩手、福島などの東北産地や茨城からの入荷が中心となる。東北産地では低温等の影響による生育遅れが回復に向かうも解消には至らないか。東北産地のピーク時期で、出回り量は十分と見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
ばれいしよ	2017年	6,290	124	117	125	130	北海道 83%
	2018年	5,139	117	91	117	132	茨城 8%
	2019年	6,104	124	142	123	111	千葉 4%
	2020年	7,071	166	267	162	122	青森 3%
	2021年	5,052	161	131	153	185	静岡 1%
	5ヵ年平均	5,931	139	156	137	134	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	5,600	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に茨城、千葉などからの入荷となる。主力が関東産地や静岡から北海道へ切り替わる。北海道は生育順調で、中旬以降に増量しピークに入る。潤沢な出回りで低調な相場が続くか。 入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
<p>北海道を中心に茨城、千葉などからの入荷となる。主力が関東産地や静岡から北海道へ切り替わる。北海道は生育順調で、中旬以降に増量しピークに入る。潤沢な出回りで低調な相場が続くか。 入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
たまねぎ	2017年	10,166	88	89	91	85	北海道 73%
	2018年	9,933	112	118	114	106	兵庫 18%
	2019年	9,221	88	92	88	84	佐賀 3%
	2020年	9,719	116	144	116	92	中国 2%
	2021年	10,729	102	106	103	98	富山 2%
	5ヵ年平均	9,954	101	110	103	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	10,000	120	140	120	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、兵庫、佐賀などからの入荷となる。前進傾向の兵庫の量がまとまるのは中旬までで、佐賀はほぼ終了。北海道はおおむね生育順調で一部に肥大遅れがあるも量を増やし、入荷は潤沢な見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
<p>北海道を中心に、兵庫、佐賀などからの入荷となる。前進傾向の兵庫の量がまとまるのは中旬までで、佐賀はほぼ終了。北海道はおおむね生育順調で一部に肥大遅れがあるも量を増やし、入荷は潤沢な見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

7月19日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	9,919	393	432	381	358	長野 26%
	2018年	9,006	430	443	414	430	フィリピン 15%
	2019年	8,607	434	428	431	453	山形 12%
	2020年	7,691	510	495	526	536	愛知 9%
	2021年	8,328	501	518	495	497	青森 7%
	5ヵ年平均	8,710	450	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	8,100	510	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、なし、ももなどを中心に入荷する。全体的に生育が遅れ気味であり、ぶどうは、着色不足によりやや遅れ気味。ももは小玉傾向のため、入荷箱数は減る見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並の見込み。						
アールスメロン	2017年	260	550	—	—	—	愛知 64%
	2018年	226	556	—	—	—	静岡 23%
	2019年	207	605	—	—	—	茨城 10%
	2020年	186	636	—	—	—	山形 2%
	2021年	237	527	—	—	—	高知 2%
	5ヵ年平均	223	571	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	210	550	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に静岡、茨城などから入荷する。愛知は昨年並の数量だが、作柄は前倒し傾向となっている。茨城は盆前の数量が、前年の8～9割程度の予想。各産地、大玉中心の玉流れとなっている。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						
すいか	2017年	2,776	165	205	151	106	山形 46%
	2018年	2,135	186	186	191	183	長野 33%
	2019年	2,284	170	163	181	178	青森 13%
	2020年	1,669	221	195	239	304	秋田 4%
	2021年	1,736	215	231	225	178	愛知 1%
	5ヵ年平均	2,120	187	195	191	180	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,700	220	210	240	280	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形、長野を中心に青森などからも入荷する。各産地で作付面積が減少している。山形は、6月の低温により着花が悪く、数量が減少する見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。						

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	39,014	398	434	401	357	山形 18%
	2018年	35,342	436	427	436	448	山梨 11%
	2019年	35,795	432	407	431	470	青森 9%
	2020年	28,903	557	492	566	622	長野 9%
	2021年	31,441	546	531	569	544	福島 7%
	5ヵ年平均	34,099	467	—	—	—	
	2022年見通し	32,000	550	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	なし、もも、ぶどうを中心に入荷する。記録的に早い梅雨明けをして、6、7月の月平均気温も全国的に高く、生育は前進した。8月はこの影響を受け小玉傾向が見込まれ、ぶどうでは着色不良が懸念される。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						
アールスメロン	2017年	649	546	600	661	453	青森 29%
	2018年	635	571	549	708	525	静岡 27%
	2019年	565	643	593	758	635	茨城 26%
	2020年	516	737	632	846	755	愛知 8%
	2021年	650	591	656	670	485	山形 6%
	5ヵ年平均	603	612	605	723	561	
	2022年見通し	650	600	650	670	500	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森、静岡、茨城を中心に入荷する。茨城は生育順調で前年並の入荷となる見込み。静岡は下旬にかけて下位等級の発生が多くなる見込み。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						
すいか	2017年	10,196	166	200	154	110	山形 48%
	2018年	7,936	190	179	193	223	秋田 16%
	2019年	9,732	179	170	185	200	長野 14%
	2020年	6,261	264	209	281	438	青森 9%
	2021年	7,316	239	245	248	209	神奈川 3%
	5ヵ年平均	8,288	201	198	205	220	
	2022年見通し	7,400	240	250	260	220	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形を中心に入荷する。生育は前年よりやや遅れているが、平年並みの3Lサイズが中心となる見込み。入荷のピークは前年同様の8月上旬がピークとなる見込み。入荷量、価格ともに順調な生育だった前年並となる見込み。						

切花・鉢花の8月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 7月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2017年	2,381	58	
		2018年	2,185	62	
		2019年	1,885	57	
		2020年	2,021	52	
		2021年	2,008	59	
	5カ年平均		2,096	58	
	2022年見通し		1,850	60	
概要	愛知、長野中心に入荷。6、7月の生育環境が良くなかったため、盆需要に対して後半に入荷数量が増えてきそう。盆明けまで出荷が残る産地も見込まれ、明けからの相場展開が厳しそうである。				
小 ぎ	実績	2017年	1,931	37	
		2018年	1,732	44	
		2019年	1,771	39	
		2020年	1,698	40	
		2021年	1,597	39	
	5カ年平均		1,746	40	
	2022年見通し		1,600	40	
概要	愛知、長野、埼玉、奈良、岩手からの入荷。全体的に生育は遅れ気味で盆後半にかけては入荷数量も伸び、盆明けまで残りそうな見込み。後半は販売が厳しい展開になりそうである。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2017年	1,281	48	
		2018年	1,451	49	
		2019年	1,391	41	
		2020年	1,193	43	
		2021年	1,027	44	
	5カ年平均		1,269	45	
	2022年見通し		1,150	45	
概要	長野中心の入荷。品種により多少前進したのものもあるが、例年並の入荷。輸入物は引き続き不安定な入荷でお盆については前年の6～7割と少なめな予想。				
か す み	実績	2017年	121	95	
		2018年	120	105	
		2019年	109	105	
		2020年	103	115	
		2021年	109	102	
	5カ年平均		112	104	
	2022年見通し		115	105	
概要	福島、長野から入荷する。上旬は新植株のピークとなるため、各産地出荷は多い見込み。数量次第では厳しい販売となりそう。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	2017年	428	152	
		2018年	355	178	
		2019年	366	155	
		2020年	288	175	
		2021年	244	183	
	5カ年平均		336	166	
	2022年見通し		240	170	
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜、北海道、埼玉からの入荷となる。やや遅れている産地もあるが、概ね順調な入荷が見込まれる。鉄砲は兵庫、愛媛からの入荷で、愛媛産が減少しているため、数量は昨年よりも減少しそう。LAは新潟、埼玉から前年並の入荷の見込。</p>				
洋 ら ん	実績	2017年	484	78	
		2018年	532	82	
		2019年	417	89	
		2020年	317	94	
		2021年	294	110	
	5カ年平均		409	88	
	2022年見通し		300	100	
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡などの国産に加え、輸入品が入荷する。カトリア以外は輸入中心の入荷でデンファレはソニアと白のみだが、例年の数量は確保の見込み。オンシジウムは船便となり、数量減で特に下位サイズは品薄。コショウランは輸入に波があり、散発的に増減するが、概ね潤沢な入荷となる。カトリアは少なめで推移し、量的増えてくるのは来月になりそう。</p>				
ば ら	実績	2017年	566	60	
		2018年	557	60	
		2019年	486	53	
		2020年	451	53	
		2021年	398	58	
	5カ年平均		492	57	
	2022年見通し		400	55	
概要	<p>山形、長野、愛知、岐阜を中心に入荷。輸入物はお盆過ぎから徐々に始まり、株休めを行っている伊勢も中旬から出荷が再開される。</p>				
枝 も の	実績	2017年	1,766	68	
		2018年	1,726	65	
		2019年	1,505	70	
		2020年	1,384	74	
		2021年	1,399	83	
	5カ年平均		1,556	71	
	2022年見通し		1,450	80	
概要	<p>パンパスは近年、需要が高まっているが、一旦落ち込んだ生産から回復できず、供給がままならない状況となっている。高温の影響で山取物も品薄となる見込み。法月などの盆商材は入荷が安定している。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	2017年	9, 2 7 5	9 4 8	
		2018年	9, 7 5 8	9 2 6	
		2019年	1 0, 8 2 5	9 2 6	
		2020年	1 2, 6 1 1	9 0 5	
		2021年	1 2, 0 0 0	9 1 7	
	5カ年平均		1 0, 8 9 4	9 2 3	
	2022年見通し		1 0, 0 0 0	9 5 0	
概要	<p>入荷量は前年を大幅に下回るか。作付け内容に大きな変更は無く、6号MIXが主体となる。また、7号以上は赤・ピンク・白系が主力の色目となる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(86.6%)、2位長崎(9.1%)、3位滋賀(1.2%)となっている。</p>				
シャ コ バ サ ボ テ ン	実 績	2017年	8, 5 5 9	4 0 3	
		2018年	3, 4 2 1	4 1 1	
		2019年	5, 0 5 8	3 9 4	
		2020年	7, 3 8 7	3 8 8	
		2021年	6, 9 7 5	3 9 5	
	5カ年平均		6, 2 8 0	3 9 7	
	2022年見通し		6, 9 0 0	3 9 1	
概要	<p>入荷量は前年並か。ホームセンターの注文を中心に3、5号、5号の引き合いが強く、6号以上は年々厳しくなっている。また、今年も盆明けは残暑が厳しいと想定される為、注文の減少・競売価格の下落が予想される。生産量は前年とほぼ変わらない為、注文の数量次第では、競売価格が大幅に上下すると思われる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(90.8%)、2位愛知(9.0%)となっている。</p>				
バラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	2017年	7, 1 4 7	1 1 9	
		2018年	5, 3 2 4	1 2 3	
		2019年	4, 1 5 3	1 1 0	
		2020年	6, 0 7 5	1 1 9	
		2021年	2, 3 0 8	1 3 9	
	5カ年平均		5, 0 0 1	1 2 0	
	2022年見通し		2, 0 0 0	1 2 0	
概要	<p>入荷量は継続的な生産調整等で減少の見込み。前年同様、周年生産の産地である岐阜と愛媛を中心に3～3.5号が中心となる見込み。 今季の夏は早くから気温が高く、8月も気温が高くなる為に販売も苦戦が予想されるが単価的にも厳しい見込み。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛媛(66.9%)、2位岐阜(29.4%)、3位千葉(3.7%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	2017年	1, 633	776	
		2018年	1, 331	764	
		2019年	1, 092	597	
		2020年	1, 302	840	
		2021年	1, 328	753	
	5カ年平均		1, 337	752	
	2022年見通し		800	750	
概要	<p>入荷量は前年より4割ほど減少か。高齢の為に生産無しが1件他、半減見込みの生産者が2件。近年の高温化もあり、オンシジウムの特性上鑑賞期間が短く、相場低迷もある為に出荷に繋がりにくい。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(86.8%)、2位高知(13.0%)となっている。</p>				
スパテイ	実績	2017年	1, 496	342	
		2018年	1, 213	378	
		2019年	2, 420	296	
		2020年	2, 872	274	
		2021年	2, 277	503	
	5カ年平均		2, 056	352	
	2022年見通し		2, 000	400	
概要	<p>入荷量は前年よりさらに減少か。年々生産量が減少しているのが要因で今期も減少の見込み。4～6号が入荷のメインになる。</p> <p>今季の夏は早くから気温が高く、8月も気温が高くなる為に販売も苦戦が予想されるが単価的にも厳しい見込み。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(66.1%)、2位愛知(26.0)、3位岐阜(4.5%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	2017年	12, 613	926	
		2018年	14, 135	808	
		2019年	14, 216	687	
		2020年	19, 824	832	
		2021年	16, 396	1, 165	
	5カ年平均		15, 437	887	
	2022年見通し		15, 000	1, 267	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。原木類、輸送コストの高騰により値上げを余儀なくされている。特にコンシンネ、レモンライムなど原木価格がかなり高騰しており、流通価格によっては今後の継続も危ぶまれる。</p> <p>ユッカ、マッサン等は前年並での見込み。6号未満に関しては品薄状態になる。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(57.1%)、2位沖縄(10.3%)、3位鹿児島(9.6%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.590
2022年8月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434